けいはんな学研都市　広報誌　March 2023 Vol.56

# けいはんな View　特集：けいはんなと万博　せんい館

令和５年（2023）３月発行：公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構

けいはんな View は学研都市の新しい動きや関係機関の皆様方の活動を始め、地域の文化や催事情報などをお届けする学研都市の広報誌
（年間４回発行）

EXPO 2025 にむけて大阪・関西万博の特集を組まれ、その一つ「万博いまむかし⑧」が掲載されました。
今回は EXPO‘70 パビリオン編：「せんい館」を紹介。
　お祭り広場の大屋根を突き破る太陽の塔の北側に「せんい館]があった。スキーのジャンプ台のような白銀の屋根は繊維が持つなだらかな曲線をイメージし、その中央に突き出た深紅のドームのコントラストが映える。ドームのまわりには建築工事用の足場が組まれ工事作業員の人形が乗っている。
造形ディレクター横尾忠則氏が建築途中の瞬間を「凍結」した、動きのない世界は未完成の美を表している。
ロビーには 15 体の巨人人形「ルネ・マグリットの男」たちが出迎える。帽子からは赤いレーザー光線があや取り遊びを描く。
繊維の未来を表現した空間ディスプレー。世界各国から贈られた布地で色とりどりに編まれた布は伝統と祝祭のシンボルを表現していた。

紙面のバックに「せんい館」の写真（右下）を、赤色だけ際立たせたモノクロ写真に加工して使用。

万博いまむかし○

## EXPO’70 パビリオン編：せんい館

### 繊維は人間生活を豊かにする

　お祭り広場の大屋根を突き破る太陽の塔を越えた北側に、ひと際目立つせんい館があった。スキーのジャンプ台のようななだらかな白銀の屋根と、その中央に突き出た深紅のドームのコントラストが映える。

　ドームのまわりには建築工事用の足場が組まれ、全身真っ赤の工事作業員、足場の上には黒い烏が留まる。造形ディレクターを務めた横尾忠則氏が、建築途中の瞬間を「凍結」した、動きのない世界は、未完成の美を表したと言われている。

　真っ赤なじゅうたん張りのロビーでは、15 体の巨人人形が出迎える。70 年万博に数多く参加した前衛芸術家のひとり、四谷シモン氏が制作した「ルネ・マグリットの男」である。フロックコートに山高帽、帽子からは赤いレーザー光線があやとりのように照射され、胸元の内蔵スピーカーから話しかけられるなど、印象は強烈だ。

　頭上を見れば白い足の生えた黒い烏が空を羽ばたき駆ける、繊維の未来を表現した空間ディスプレイ。さらに世界各国から贈られた布地で色とりどりに化粧まわしのように編まれた大きなしめ飾りは、伝統と祝祭のシンボルとして表現された。

　展示回廊へ進むと、４つのセクションに分かれている。綿花や絹、羊から、人工化繊までの繊維の歴史や未来、また柄や模様、色のない世界とカラフルな世界を対比させた空間構成と映像で繊維のもつ意義や役割を堪能する。

　赤い外観の中央ドームの中は、真っ白で壁面に女性のレリーフが取り付けられ、最大の見せ場である映像空間になっている。大画面のスクリーンに投影される「スペース・プロジェクション・アコ」である。若い女性アコの喜怒哀楽、躍動感を新しい映像方式で表現した。

　ショーエリアではパリの著名店によるオートクチュールショーが繰り広げられた。当時の価格で食事付き２万５０００円の価値があるという。また国際的な繊維団体によるインターナショナル・モードウィークが期間ごとに開催され、シルクロード交易を思い起こさせる和装やアジア・中東の絹の衣装や、ウールが紡ぐ世界のモード、別の日にはフォークソングインドレスなど、世界各国の衣装の共演が EXPO 名物となった。

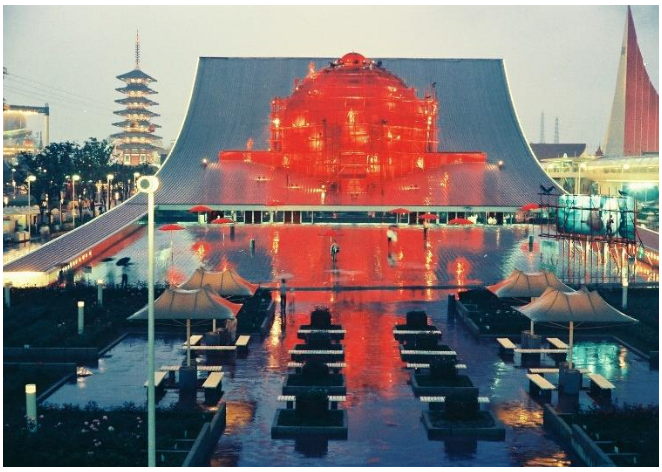
　繊維が紡いだ世界を通して「若さ」「実験」「反博」「サイケデリック」「アバンギャルド」などの多くのキーワードが記憶に残った。捉え方はさまざまでも、多様性の包摂こそが、人間が主役の共創の場、いのちかがやくデザインであることを、１９７０年、最も進歩的で調和のとれた色彩豊かな場が示唆してくれている。

　今跡地には、人種や文化のるつぼ、国立民族学博物館が建っている。

「ルネ・マグリットの男」（制作 1970 年）
せんい館に展示されていた 15 体のうちの 1 体は、現在香川県坂出市の四谷シモン人形館 淡翁荘に展示されている

※このページでは、2022年度企画として、1970年には生まれていなかった作成者が、EXPO'1970にあったパビリオンを、記録資料や図書、現地調査を通して追体験、在りし日の万国博覧会を探します。
（作成協力：呉服 淳二郎<公共図書館職員>）

せんい館　（抜粋、当時記録をもとにする、敬称略）
日本繊維館協力会会長：谷口豊三郎（東洋紡績会長）、参加団体：日本紡績協会、日本化学繊維協会ほか５７団体
館長：大賀昭治（日東紡績）　企画制作委託：協和広告（株）　総合プロデューサー：工藤充（元文部省）、松本俊夫（映画監督）　映像：鈴木達夫（撮影監督）
音響：秋山邦晴（作曲家）、造形・ポスター：横尾忠則（芸術家）、作曲：湯浅譲二（作曲家）、展示：植松國臣（デザイナー）、吉村益信（芸術家）、四谷シモン（人形作家）
建築設計：大林組　施工：大林組、竹中工務店　敷地面積：5,500 平方メートル　建築面積：2,700 平方メートル　鉄骨造・エンボスアルミ波板葺き
入館者数：延べ7,894,515 人（１９７０年９月１３日<日本万国博覧会>）



EXPO‘70「せんい館」
写真撮影：厚見昌彦氏